

ら會ふが要求は入れないとの事で已むなく惡辣なる資本家に對し徹底的反省を促す事とし直ちに機械の掃除を濟せ争議に入つたのである。

責任ある常務は大分に逃げてしまひ工場長は非常に狼狽してゐると聞いてゐる僅か十人の争議であるが勝敗は北九州全部に影響するのだ、今後來る可き不景氣により労働者奴隷視する北九州の資本家に對し又昭和十一年十二月の嵐に對しても決死的に戦ふとの建前から本争議は徹底的にやるこの争議を打潰せと言ふ資本家もある、この戦は負けてはならぬ、九聯の旗を翻へし戦を初めた以上、彼等が如何なる戦術を用ふるとも飽く迄膺懲を加ふる覺悟であるから應援を頼む。

○總同盟九州聯合會長

伊藤 卯四郎

總同盟は争議を避け、刀を抜かず血を見ず労働者の利益と幸福を計りたいと言ふのが精神である。

然しこの眞心に對し資本家が悪用する如きに至つては仕方がない、一度刀を抜いたら飽迄戦ふ、九州電氣には相當の考慮を待つたがそれを會社は逆用した要求を入れる入れぬは先方の勝手であるが解決せしめる爲に會ふと言ふ事は社會と産業に對する責任がある。

裏切者が仕事をしてゐたが、労働者共通の眞心を知る多くの人は其の仕事を止め又は止めさせて仕舞つた、今日工場は完全に止めてゐる。従業員より先に吾々が倒れるの覺悟を以て引受けた以上何年でもやるこの覺悟がなくては今日の資本家に向つて進む事は出来ない。

組合の無い所は争議が起つてから頼みに來る放ても置けな